

2026年1月5日

改めまして、明けましておめでとうございます。

2026年になりました。今回の年末年始は結構長い休みだったかと思いますけれども、皆さんはどういう風に過ごされたんでしょうか。

私はですね、普段の土日に近い日々が続いたところがございます。特に外出もせず、普通の土曜日、日曜日といいますか、買い物に行ったり、子供と遊んだりという日々を過ごしていました。

ただ、やっぱり雰囲気は年末年始でしたよね。それはおそらく、新年を迎えようという気持ちがそういう風にさせるのかなと思います。特殊な雰囲気の中で過ごしているなというところはありました。

思えば、人生がもし80年ぐらいという風に仮定すればですね、この新年を迎えるという機会は80回ぐらいなものですから、その80回ぐらいの中の1回ということですよね。だから、すごく貴重な1回なんだなという風にも思いますし、やっぱり大事に大事に過ごしていきたいなどいう風にも思います。

さて、昨年の2025年は、かなりインパクトのある年でしたね。トランプ大統領の就任から始まって、大阪関西万博の開催、そして秋には高市総理大臣の誕生ということもあって、おそらく後から振り返って歴史の教科書を開くと、その辺の事柄は多分出ているだろうなということで、そういう意味では、2025年というのはすごくインパクトがあって、記憶に残りやすい年だったかなと思います。

その翌年の2026年がどうなるかというところでございます。思えば、1985年もインパクトがあって、1995年もインパクトがあって、それぞれの次の年の1986年、1996年ってどうだったかなと考えると、あんまり思い出せないという部分があるので、インパクトの強い年の翌年っていうのはそういう年になりますかなと思います。この2026年はなかなか見えにくいうころもあるなと感じています。

そんな中で、1つ言えるのは、今年はAIがさらに進化するだろうということです。昨年、申し上げたように、AIというものは、言葉で聞いていましたけれども、まだ何も体験もしていなかった状態から、昨年は触れ合うことができたわけです。

触れ合うことができて、今年はおそらく、AIが末端にまできて、生活、それから仕事、いろんなところに登場てくるだろうと思います。会社としても、このAIとどう向き合っていくのかっていうところが非常に大きなテーマになってくる年になるのかなと思います。

引き続き、周りの環境は厳しい状態が続いている。円安が続いている、物価高もあって、中国も厳しい状況というところで、環境が厳しい状態。

でも1つ思うのは、昨年、2025年の年頭に申し上げたのが、「変化を楽しむ」ということでして、この「変化を楽しむ」ということを実際に昨年は実践してみたところ、意外と結果はまずまず良かったんですよね。

やっぱり、この楽しむっていうのは、いいことなんだなと思いました。今年も厳しい環境の中で、少し暗い中にあるんですけど、あえてですね、この「変化を楽しむ」ことは続けながらも、明るくしていくのでしょうか、自ら発光する形。

何を言ってるか分からないかも知れませんが、自分が明るいオーラを出していって発光していくことで、どんどん周りを明るくしていくっていうイメージですね。明るいところには、いいことが集まってくるっていうこともありますので、私も、自分から心がけて、明るいオーラを出していきたいと思います。

以上

代表取締役社長 角高哲治